R6 年 10 月発行
発信元：東大阪支援学校

子どもたちへの支援に役立つ情報を伝える

中河内ブロック支援通信

７月３１日(水)、八尾支援学校を会場に「事例から学ぶ支援教育」をテーマとして第１回中河内ブロック研修会を行いました。本ブロックでは毎年恒例となっているこの研修、今年度も八尾支援学校、東大阪支援学校、東大阪市、八尾市、柏原市の学校園の先生方など１９０名の参加があり、日ごろの支援について事例を持ち寄り、小集団での活発な意見交流が行われました。

「困っているのは子どもたち」とは言うものの、日々学校現場で奮闘されている先生方自身が、子どもたちの学習面の課題、行動上の問題、保護者支援など、さまざまな悩みを抱え、困っているのも事実です。そういった悩みや困りごとをみなさんで共有しあい、意見交流を深める中で、新たな視点からの指導・支援の方策や、２学期からの実践のヒントを得られた方が多かったようです。

今回の事例相談を通して、不安が少しでも解消され、「子どもを中心に」したポジティブなかかわり方や支援につなげていただけていたら幸いです。来年度も、たくさんの先生方の参加をお待ちしております。

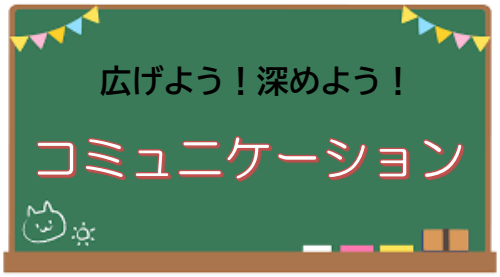
参加者アンケートより

自分が悩んでいることへのアドバイスをいただき、いろんなやり方がある事に気づかせていただきました。

学校内でどのような支援を行っていくと良いのか、行き詰まっていましたが、他校での取り組みや思いに触れることで、より幅広い視点で考えることができました。

多くの先生方からさまざまな手立てを提案していただき、充実した時間となりました。今日学んだことを2学期から実践していけるように準備をしたい。

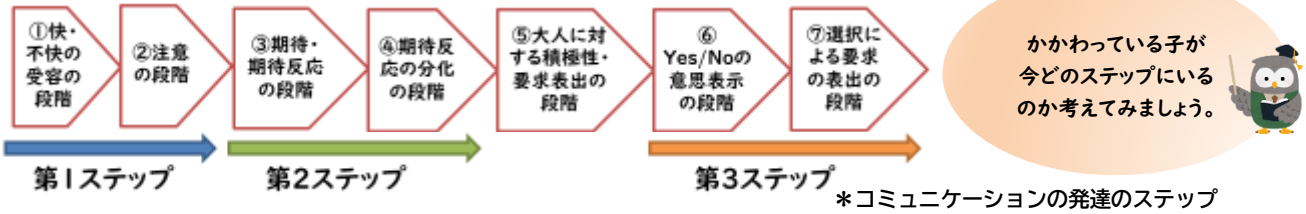
自分の相談事例だけでなく、他の先生方の相談でも、あの子と似ている！同じ実践ができそう！と感じる内容も多くありました。



コミュニケーションとは、人と人の間で行われる情報（知覚・感情・思考）のやりとりを意味しています。私たちは相手に情報をより正しく伝えるために、自然に言語手段と非言語手段を組み合わせながら日常的にコミュニケーションをとっています。また、自立活動の第６区分「コミュニケーション」では、場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点から内容が示されています。

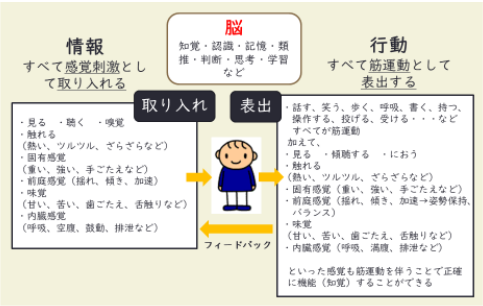
＊言語手段：言葉（音声言語）・文字　非言語手段：表情やジェスチャー（身振り）、指さし、クレーンなど

発語がない、言葉の理解が難しい、意思の表出が乏しい子どもたちとかかわる時、子どもの気持ちを正しく受け止めていくことや、子どもにこちらの気持ちを適切に伝えていくことにむずかしさを感じている方も多いのではないでしょうか？子どもたちが何らかの手段で、自分の気持ちを表出し、伝える力をつけていくためには、コミュニケーションの発達の段階に応じた支援をしていくことが大切です。



＊コミュニケーションの発達のステップ

コミュニケーションの土台となるのが、外界から感覚刺激として取り込んだあらゆる情報です。認知能力も感覚が基礎となって発達していきます。子どもたちの中には、小さいころからの生活経験、直接的な体験が乏しく、今までに取り込んできた情報が少ない子もいます。
例えば、「ブランコは楽しい。」や「スライムは触ると気持ち良い。」といった情報は経験して初めて生まれます。さまざまな刺激や外界からのはたらきかけに触れる場面を意図的に増やすことはコミュニケーション支援として重要な第一歩です。



今回はコミュニケーションの発達の初期の段階（前言語期）におけるかかわりについて、支援学校での取り組みの一例を紹介します。参考にしていただけると幸いです。

◇◆◇コミュニケーションの発達のステップ（前言語期）◇◆

①刺激やはたらきかけに注意を向ける

聴覚、視覚等の五感や前庭感覚等の感覚器官から刺激やはたらきかけに気づく。

■注意を促す支援

感触あそび、揺れあそびなどの身体へのアプローチ、光あそび、音の変化、甘い匂いといった嗅覚刺激も効果的。何よりも大人も一緒に楽しむことを大切に。

②刺激やはたらきかけを予期・期待する

受けとった刺激やはたらきかけを記憶し、記憶した刺激・はたらきかけを思い出して、予期することができる。

■期待を促す支援

「３．２．１！」「もう一回」、具体物や絵カードを見せる、はじまりの音楽などの楽しいことが起こると予期できる「手がかり刺激」を示す。

③刺激やはたらきかけに応答する

刺激やはたらきかけ（問いかけや呼びかけ等も含む）に対して、何らかの手段で応答する。

■表出を見つけ出し、意味づける支援

毎朝の名前よびなど、同じやりとりを積み重ねることで、得意な表出手段が確立される。習慣化することで、表出の変化や新しい表出にも気づきやすい。

片栗粉をつかった感触あそび

粉から固体、液状への変化や色の変化を楽しみました。感覚過敏の子も、水ですぐに洗い流せると分かると安心して取り組めました。ダイラタンシー現象が好評でした！

「3・2・1」で主体的な動作が…

楽しいことが起こると予期できることは、子どもの主体的な動作にもつながります。「３・２・１」でボールを転がしたり、ロープを引っ張ったりが上手になりました。

日常の些細な場面でも自己選択・自己決定を！

時間の許す限りではありますが、授業中だけでなく、介助の場面であっても言葉かけや選択肢を提示し Yes/No の意思表示を促しています。

もっと！コミュニケーション！

子どもたちの中には、さまざまな理由で書字の困難さや発音の不明瞭さ、また頭の中で上手く言葉をまとめられないなどの、表出する上での「弱さ」を抱えている子もいます。それらを「できること」で補うことでさらにコミュニケーションを深めていくことができます。

iPad を活用した文字入力

書字ができるが読み取りにくく時間がかかる中学部生徒

■期末テストの解答方法を筆記から文字入力に変更
■使用したアプリ:「よめるんです」
▹テストへの苦手意識と書字からくる身体的な疲れが軽減され、効率が上がった。
▹表出へのモチベーションも上がり、日記を書くことが日課になった。

えこみゅ
デベロッパ: LITALICO Inc.
絵カードで深まるコミュニケーション

SimpleMind
マインドマップで伝えたいことを整理できる

第２回中河内ブロック研修会（講演会）のおしらせ

日 時： 2025 年１月７日（火）14：00～16：15（予定）
会 場： 八尾支援学校　※集合型研修となります
講 師： 小西　好彦先生（早稲田大学・大学院　講師）
演 題： 『すべての子が「適切に社会とかかわり、よりよい人生を送る」ために』

生徒指導・支援教育でタッグを組む